

3月10日 Asia House オンラインイベント 林大使スピーチ仮訳

(序)

このカンファレンスにおいて基調スピーチを行うこと及び日英関係に関心を持つ非常に多くの方々に本日参加いただいていることを大変光栄に思います。はじめに、本プロジェクト及びその最終成果として本日アジアハウスによって発表されるレポートに関わった全ての方々に心からの感謝を示したいと思います。自由でルールに基づくグローバル秩序、デジタル、気候変動に関するものを含め、レポートで示されている提言は、二国間でも、グローバルでも、ますます重要になっています。

日本と英国にとって、2021年は特別な年です。日英包括的経済連携協定、並びに英EU貿易及び協力協定はEU離脱後の英国の将来を支え、我々は新しい時代の始まりを目にしています。このような状況において駐英日本国大使としての役目を始めることを本当にうれしく、心から光栄に感じています。本日は、日英がどういった分野で更に協力を強めることができるかについて概観したいと思います。

(日英EPA)

日英の二国間経済関係を考えるには、1月1日に発効した日英EPAから始めなければなりません。

第一に、このEPAは将来のための法的枠組を提供し、ビジネスに対する予見可能性と確実性をもたらし、英国のEU離脱後の継続性を成功裏に確保しました。2019年における日英二国間の物品・サービス貿易の総額は300億ポンド以上に上り、日系企業は様々な分野で何年も、更には何十年も、英国に積極的に投資してきました。実際、日本にとって英国は、唯一米国に続く第二位の投資先であり、日本の英国に対する海外直接投資は自動車産業から製薬産業、不動産から通信まで幅広い産業にわたります。これらの企業の観点からは、これほどに重要な二国間関係のための継続性を確保したことは大きな成果です。そして継続性を越えて、この協定は特にデジタル分野において世界で最も先進的な内容を一部含んでいます。これらはパンデミック及びその後の事態に我々が取り組む際に極めて重要となってきます。

私は、このEPAが日英間の将来の一層活発な関係に貢献することを強く望みます。この点において、日本国政府及び在英日本国大使館は、英国のカウンターパートと協力しながら、この協定の活用を積極的に推進していくつもりです。

このEPAとともに、英EU間で合意された貿易及び協力協定も歓迎します。それと同時に、英国政府が、国境での混乱や金融サービスへの同等性といった依然残る課題の解決に向けて、EUと協働し続けることを期待します。このことは、英国の中で欧州全体を舞台に活動する日系企業にとって極めて重要です。

(日英の更なる協力)

将来を見据えると、現在世界はルールに基づく貿易や経済の国際秩序を再構築する必要があると述べなければなりません。日本と英国はそれぞれ第三位、第五位の経済大国であり、自由貿易の伝統的な信奉者です。我々は自由貿易体制を守る責任を共有しています。

(CPTPP)

そのような協力の第一の分野は環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP)です。日本は、2月1日に行われた英国による正式な加入申請を歓迎します。それぞれのメンバー国との協議がされなければなりません。日本は、本年のTPP委員会の議長国を務めるに際し、その役割を果たすつもりです。日本は、英国がこの手続の中で、CPTPPの先進的で最先端のルールに向け取り組む用意があることを示していくことを期待しています。

英国にとって、CPTPPへの加入は、成長著しいアジア市場とのつながりを強化する優れた機会となるでしょうし、それ以上に、「グローバル・ブリテン」の下でのアジアへの英国の更なるコミットメントにつながるでしょう。

インド太平洋地域において、日英二国間協力の大きな余地があります。今後数か月、数年に同地域での日英協力がより広く、より深くなることを望みます。

(WTO改革)

次に、議論する第二の分野としてWTO改革を強調したいと思います。周知のとおり、WTO加盟国は、新しく選出されたオコンジョ＝イウェアラ事務局長の下で、山積する重大な課題に共に取り組んで行かなければなりません。機能不全を終わらせること、ルールの現代化、途上国に対する特別かつ異なる待遇の改革が含まれます。

英国がEUの外にある独立かつ重要な存在となった今、より自由かつ公正なルールに基づく多角的貿易体制に向けて、日英協力の更なる機会が存在します。

WTOが、自由貿易という共通の価値を持つ全ての参加者が利益を得られるような、公正で開かれたレジームとなることが重要です。そのために、特に米国やEUといったWTOの他の主要加盟国と緊密に協力しながら、WTO改革のためにも取り組もうではありませんか。

(結語)

本年英国はG7及びCOP26の議長を務め、そこでは世界の首脳たちが改めて重要な問題を対面で議論することができるでしょう。このパンデミックの中で、我々は、感染症のみならず貿易や気候変動を含む幅広いグローバル課題に立ち向かわなければならないことを、これまで以上に痛感しています。より明るい未来に向けて、日英がイニシアティブを取って国際的な議論を主導していくことが不可欠です。

私としては、駐英日本国大使として、本日述べたような可能性と機会を積極的に、最大限活用していきたいと思います。この点で、素晴らしい参加者の皆様との実り多く示唆に富む議論が本日举行されることを楽しみにしています。

御静聴どうもありがとうございました。